

昭和女大文家政	大竹	この
	金子	仁子
	○浮須	婦紗
	若林	幸子
	佐成	郁子

1. 生活の機能性・合理性が重視される今日においては、教育に要求される分野も当然、従来とは異って来ると考えられるので、今後の被服学・家政学教育の参考に資する目的を以て本調査を行なった。

2. 調査は、昭和42年8月、18～39歳の婦人を対象に、面接法により実施。回収数 1,932。各年令を4階層に区分、未・既婚別、居住地域別、職業の有無、被服教育の程度、本人の性格など、被服の更生に関する諸要因と思われる項目について検討し、さらに更生に対する考え方、体験例を加えた。

3. 概して、更生をする者より、更生をしない者の割合が多い。未・既婚別においては、各年齢層共、既婚者の方が更生する割合が多く、地域別では、農山漁村が多く、大都市は少ない。職業の有無については、無職の者が多く、被服教育の点では、大学・専門学校卒業者が比較的多く、中学卒業者が最少である。本人の性格との関連では、10代・20代はS型（白石式性格調査）30代ではZ型が多く、各年齢平均ではH型が少ない。更生の要否については、「必要である」と答えた者が20代後半、30代に多く、「どちらともいえない」がそれに次ぎ、「必要でない」は10代、20代前半に多い。更生の体験例は120余件に及び、概覧すると、長着から寝具・浴衣からおむつ・プリーツスカートからタイトスカート・大人物から子供物・流行おくれのものを流行のものに・ニット類の編み直しなどであった。